

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	利用者の将来や地域動向を踏まえビジョンを家族や職員と具体的に話し合っています
	内容	当事業所を中心に法人全体として、うさぎとかめの生活介護、就労継続支援B型に加え放課後等デイサービス、共同生活援助の福祉サービス及び地域生活支援として移動支援等を行っています。また、言語発達支援事業として言語療法だけでなく、相談支援・音楽療法等を行い、これらを一体的に運営し、障害者の地域自立生活を多面的に支えようとしています。そのため、毎日の支援現場での課題は各事業の毎日の振り返り(終礼)でその都度検討され決定され、利用者を中心に総合的サービスとして提供できる体制を築こうとしています。
2	タイトル	職員会議や支援会議など、職員がほぼ全員参加する会議を週に1回開催し、利用者の支援方針の検討や職員の意思統一を図っています
	内容	利用者の帰宅後に全職員でその日の振り返りを毎日おこない、利用者一人ひとりの状況を職員間で共有化しています。さらに、職員会議や支援会議を毎週1回の頻度で開催し、記録化されており、利用者の個々の状況や支援方針などが議論され職員間の意思統一をおこなっています。これは職員間で立ち話をしたことはその場限りのものとして忘れ去られる可能性が高いとして、公式な会議で検討し、検討のプロセスや結論を記録化するなど、職員間の情報共有、意思統一や対話を重要視し、担当職員が孤立することなく、きめ細かいチームワークに心がけています。
3	タイトル	近隣大学との新規商品共同開発や販路の拡大、新たな作業場の増築で地域展開の可能性が広がるとともに、工賃のアップが期待されています
	内容	はちみつを使った新規商品の開発を近隣大学と共同で行い、地域の店舗を活用した「マルシェ」形式の販売事業を展開することで、地域への販路拡大と地域との密接な交流が実現しました。懸案となっていた作業場の拡充については、フランスパンの工房を増設することで利用者の活躍できる場がさらに広がり工賃のアップが期待されています。地域貢献の意味合いもある「ゆぎねっと結」の設立にも参画することで、事業所として地域の活性化にも積極的に関与していこうとする姿勢を感じることができました。
No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	大規模震災に備えて、事業継続計画を策定することに期待します
	内容	事業所では、安全や防災対策に積極的に取り組み、備蓄品の見直しや避難訓練などを行い、さらに大規模地震の発災時に被災時職員行動基準を定め、初動対応を予め決めるなど体制を徐々に整備している点を評価します。さらに、事業継続と生活継続支援の視点からこれまでの災害計画などの取り組みを統合して、BCP(事業継続計画)の作成することに期待します。2024年には新型コロナウイルスと災害対応のBCPの常備が義務化されます。それに先立ち、厚労省のガイドラインを参照に作成されることをお勧めします。
2	タイトル	次世代育成やマンパワーの結集のために、さらなる手順書や内部研修体制の整備など、さらなる業務標準化が期待されます
	内容	サービス提供のプロセスにおける職員の自己評価調査結果では肯定的な回答が多く、高い水準と推察されます。なお、「事業所業務の標準化」の категорияでは肯定的な回答が61.8%であり、他のカテゴリーに比較してやや低い水準という結果でした。さらなるサービスの向上を目指す、多岐にわたる業務課題の対応への職員の全体的なスキルアップが考えられます。マンパワーの結集に向けて、蓄積してきたノウハウを整理しつつ、業務標準化に向けて、次世代を担う経験の浅い職員の育成にも役立つような手順書の作成や内部研修体制の整備が期待されます。
3	タイトル	事業所では、現状への満足から就労意欲が停滞している利用者がいたり、就労への不安を持っている家族がいることを認識しています
	内容	パンの製造販売については、一定のスキルアップが感じられ、新たな販路拡大や地域との交流も順調であることから利用者や家族の中には、現状での就労の在り方に満足しており、本来の就労そのものへの興味や意欲が停滞しているのではないかと考えています。事業所では、就労支援C型という新しい就労の在り方についても検討を開始しましたが、今後の事業をどのように展開発展継続させていくのか中長期的な展望からさらなる検討を重ねられることを期待します。